

「保存科学」49号の出版 (©保04-09-4/5)

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。



『保存科学』第49号

間淵創、木川りか、佐野千絵

「文化財公開施設等におけるATP拭き取り検査の活用について」

早川泰弘、城野誠治、黒田泰三

「国宝伴大納言絵巻の蛍光X線分析」

北野信彦、本多貴之、佐藤則武「初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査」

脇谷草一郎、高妻洋成、肥塚隆保

「土質遺構露出展示保存のための基礎的研究—土中水のポテンシャル制御による遺構安定化の試み—」

木川りか、佐野千絵、高鳥浩介、喜友名朝彦、杉山純多、安部倫子、中右恵理子、坪倉早智子、早川典子、川野邊渉、石崎武志

「高松塚古墳石室内、取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験」

小椋大輔、銚井修一、李永輝、石崎武志

「過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析（2）」

—墳丘部表面の植生等の変化が石室内温度変動に与える影響—

小椋大輔、銚井修一、李永輝、石崎武志

「過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析（3）」

—吸放熱パネルへの送水温度および入室が石室内温湿度変動に与える影響—

三村衛、長屋淳一、石崎武志「高松塚古墳墳丘部の動的解析」

宇野朋子、薛平、高林弘実「敦煌莫高窟第285窟における壁画の劣化への光環境の影響」

吉田直人「発光ダイオードを光源とした赤外線撮影について」

犬塚将英「文化財のX線透過撮影時における照射条件評価法の開発」

早川泰弘、太田彩「伊藤若冲『動植綵絵』に見られる青色材料」

呂俊民、佐野千絵「文化財保存のための保管空間に影響するガス放散体の簡易試験法」

吉川也志保、吉田直人、木川りか

「Foxingから分離された真菌ならびにfoxing要因菌の色と蛍光スペクトルに関する考察」

森井順之、川野邊渉、柏谷博之「重要文化財及び史跡 熊野磨崖仏における磨崖仏表面のクリーニング」

原田正彦、本川りか、小峰幸夫、藤井義久、藤原裕子、川野邊渉「輪王寺本堂の虫害破損について」

小峰幸夫、原田正彦、野村牧人、木川りか、山野勝次、藤井義久、藤原裕子、川野邊渉

「日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバンムシの発生状況に関する調査について」

藤井義久、藤原裕子、原田正彦、木川りか、小峰幸夫、川野邊渉

「穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察（第2報）」

—日光輪王寺における虫害を事例として—

鳥越俊行、木川りか、原田正彦、小峰幸夫、今津節生、本田光子、川野邊渉

「X線CTによる被害材の調査と虫害の活動検出への応用」

吉田直人、高妻洋成、降幡順子、辻本与志一、間淵創、早川泰弘、佐野千絵、三浦定俊、肥塚隆保

「デジタル画像撮影による高松塚古墳壁画表面状態の調査」

佐野千絵、西島美由紀、喜友名朝彦、木川りか、杉山純多

「高松塚古墳石室内より分離された主要な微生物のギ酸、酢酸生成能」

木川りか、高鳥浩介、久米田裕子、辻本与志一、川野邊渉、佐野千絵、宇田川滋正、建石徹

「高松塚古墳壁画修理施設における生物対策について」

木川りか、佐野千絵、喜友名朝彦、立里臨、杉山純多

「高松塚古墳、キトラ古墳石室内の微生物分離株のアルコール系殺菌剤資化性試験」

高鳥浩介、久米田裕子、木川りか、佐野千絵「高松塚古墳石室および周辺部由来カビの薬剤に対する馴化」

高鳥浩介、高鳥美奈子、久米田裕子、木川りか、佐野千絵

「高松塚古墳石室および周辺部由来カビの温度帯による生理的性状—発育性および色調変化—」

木川りか、佐野千絵、喜友名朝彦、立里臨、杉山純多、高鳥浩介、久米田裕子、森井順之、早川典子、川野邊渉「キトラ古墳の微生物調査結果と微生物対策について（2009）」

松岡秋子、島津美子、邊牟木尚美、影山悦子、山内和也

「タジキスタン国立古代博物館が所蔵するソグディアナ出土壁画の保存修復

—カライ、カフカハ遺跡出土壁画KH 7-1の事例—」

佐藤香子、高林弘実、柴勃隆、丁淑君、張建林、岡田健

「唐代節愍太子墓過洞に描かれた人物像壁画の彩色材料と制作技法に関する調査」

吉田直人、佐野千絵、石崎武志

「展示公開施設の館内環境調査報告—平成20年度—」

第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（©美07-09-1/1）

2009年12月6日から8日に東京国立博物館平成館大講堂で開催した国際研究集会（企画情報部担当）の報告書を下記の内容で刊行した。なお、本書から英文を除いた内容が平凡社から『“オリジナル”の行方—文化財を伝えるために』として市販されている。



『“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために—』（A5判、456頁）

【目次】

鈴木規夫「刊行にあたって」

シンポジウムの記録

〔基調講演1〕

塩谷純「モノより思い出、思い出よりモノ」

〔セッション1 モノ/“オリジナル”と対峙する〕

何傳馨「二点の中国古書蹟における光学的調査—懷素『自叙帖』と孫過庭『書譜』」

マシュー・P・マッケルウェイ「室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”—宋画との関連」

浅野秀剛「肉筆浮世絵と浮世絵版画—浮世絵研究者にとってのオリジナル」

岡塚章子「写真—オリジナルという認識の共有」

松本透「現代美術とオリジナル」

討議— 司会：相澤正彦、山梨絵美子

〔セッション2 モノの彼方の“オリジナル”〕

タイモン・スクリーチ「おじいさんの斧—日本文化史におけるオーセンティシティと再生

—宇治橋を例に—」

津田徹英「『諸説不同記』と『現図』胎蔵曼荼羅」

シェリー・ファウラー「燈明寺『六』観音像をさぐる」

飯島満「古典芸能の伝承と変遷—人形浄瑠璃文楽の場合」

綿田稔「雪舟というオリジナルな存在—作家論の功罪」